

ご紹介 ヨーロッパのガイドライン

英国の日本スピットクラブ(会員 118 名)は日本スピット犬の健全な育成を基本的な目的としており、これを促進するために会員に守って欲しいガイドラインを次のように定めています。

(日本スピットクラブ年鑑 2004 から抜粋)

- A) 親犬の気質と標準書に基づいた長所・短所を配慮した交配を図ること
 - B) 交配には健全な気質を持ち、遺伝的欠陥の無い血統の犬を用いること
 - C) 1 歳以上の成熟した雌犬と交配すること
 - D) 次回交配まで 1 シーズンはあけること。
定期的な予防接種と寄生虫駆除で健康を保つこと
 - E) 生まれた幼犬は全犬を登録し、交配血統記録を必ずとること
 - F) 交配前に養育してくれる買主を確保しておくこと
 - G) ディーラーやペットショップに販売しないこと
 - H) 仔犬分けの広告にあたっては事実に基づいたまじめなものであること
 - I) 生後 7 週間未満の幼犬を仔分けしない。各幼犬の食餌明細を用意しておくこと
 - K) 交配両者間で交わした契約書(ディーラ・ペットショップに売らない、交配料、仔分け価格、交配義務等)のうち必要項目全てを書面にて、新しい買主に速やかに手渡すこと
 - L) 新所有者に交配条項と種犬同意書内容が十分理解されていることを確認すること
 - M) 特に新しい所有者には的確な助言と面倒を良くみてあげること
- 上記の事項でカバーされない事態に遭遇した場合は、自分ならこうして欲しいと思うような処理をすること

(提供:速水一郎氏)

スウェーデン メモ

柴 桐 (NSC 会長)

日本スピツの犬種としての評価は、国内より海外の方が遥かに高いようです。「日本スピツは友達であり家族以上の存在」(スウェーデン)、「自分を犬でなく人間と思っている犬種」(英国)そして「世界最高の犬種」(マルコ氏)と、中山さんからマルコ氏の言葉として聞き及びました。

もちろん私達を含めて日本スピツファンにとっては大好きな犬種でもあり、実感しておりますので、これらは不自然な言葉ではありません。しかし飼育経験のない方にはこの犬種の優秀性を説いても、なかなか十分理解していただけないようです。

2003年7月13日JSK/NSC展の総ての会場行事が終わり、小川を隔てた小さい方のトレーニンググラウンドで訓練用の高いブリッジに登っている日本スピツを見つけ、写真を撮らせていただいた時のことです。オーナーのご婦人が語りかけてきました。総ては聞き取れませんが、「コンパニオンドッグでこの子達に勝る犬種は見当たりません」と言われたのが部分的に漸く理解できました。それぞれの犬種はそれぞれの持ち味があり、例えば牧羊犬は愛玩用途の犬種としては不向きだと誰にもわかります。ご婦人の「伴侶犬として最も優れた犬種」との賛辞は、海外JSファン共通の評価とあらためて感銘しました。

北欧のJS愛好家は躰、特に生育時の躰を大切に考え実践しているようです。この国のJS達を観察して印象的だったのは、品位あるユウトステニング(展覧会)を犬達までも十分理解し参加しているかのように見えることでした。そして、躰も仔犬の時から約7か月間を叱ることなく優しさの中で教育するとのこと、尾を下げる個体が皆無であることから頷けました。

また、繁殖管理も明確に機能していると聞きました。例えば仔犬の出生から少しのあいだ観察を続け、その結果次第では同一組み合わせを禁止するとのことです。限られた種犬から優れたJSを作出したい想いの前では、個人感情は小さい存在のようでした。

1973年スウェーデンにJSが渡り、翌1974年FCI公認犬となり、今年で29年になります。またフィンランドでは45~50ページのJS月刊会報を発行する熱の入れようです。北欧は我が国より愛犬先進国です。しかし、日本スピツに限っては海外の総ての国より私たちは先輩格です。先輩として恥じないよう諸般心掛けたいものです。

NSC 03/9/14 報告会資料

